



気になるあいつ
わかぎるふ

双葉社

こんなことが
あつていいのか!?

気になるアイツ…このタイトルをつけた時、我ながら「ええ感じじゃん」と思ったものだった。レトロな中にも王道に行く響きがあつてなかなか小粋なタイトルだと。

しかし、まさかこのタイトルのために存在するようなものを見つけないことになるとは、夢にも想像しなかった。何も言わず今回の写真をご覧いただきたい。いったいなんだと思われそうですでしょうか？

実はこれ、我が家の隣に建っている平家の家の屋根である。そう、うちの隣の家の屋根にポコッと穴があいているのだ！一階に回っても正

面からはこの穴は見えない。この家を囲む3軒の家の2階以上の位置からだけ、この穴が見えるところにあるのである。

原因はもちろん古くて木が腐ってきているというだけのことなのだが、まさかこんな時代に穴が開くまで、家を放っておく人がいるなんて考えたこともなかったので、毎日この穴を見ながら「これでもええんやろうか？」とこつちが考えこんでいる。

そういえば数年前に住んでいたマンションの近所にも、古くなった家の屋根に穴が開いているのを発見したことがあった。しかし、そこは何十年も人が寄り付かない空家で、しかも「穴が開いている！」と驚いているうちに、建て壊してマンションになった。「ああ、老朽化で放って置いた土地もとうとう再開発されたか」と納得のいく状況だったのである。

だが、我が家の横の平屋の家は使用中なのだ。さすがに住んでいる人はいないが、それでも毎日仕事に使っているので隣人に挨拶する。「お

はようさんです」「暑いですね」なんて声をかけるのはお互いに日常茶飯事だ。おまけに隣人は町内会の会長さんもやってらっしゃる。「お宅は今回の町内会の旅行に来はる？」なんて聞いてきてくれる…。

それなのにあの大きな穴が：私は毎日隣のおじさんに声をかけながら「あの、知ってますよね？」と喉までつい言葉が出そうになるのを我慢する。で、相変わらず「春になってきましたね」とか「そろそろ阪神の試合も見に行かんとねえ」などと会話している。

うううっ！ 気になる！ 気になりすぎる!!! なんでや、なんで家に穴があいてるのにそんなに呑気なんや？ と問い詰めたい。そして彼らの家の中に入れてもらって中から見たらどんな光景なのか是非確認したい！ その上時々だが、おじさんは泊まって行く日もあるのだ。あの家で寝たらいったいどんな感じなのだろう？ 嗚呼、知りたい。知りたい過ぎるっ！

そんなわけで、私は最近隣の家の屋根を毎日観察している。ひよつと

したら何かの拍子に、ポコンツと大きな音がして屋根全部が抜け落ちる瞬間も見られるかもしれない…なんて不謹慎なことを考えるとつい見入ってしまうのだ。

実際にこの写真を撮った次の日に穴が2つになっているのに気がついた…もしえらい事になったらまた撮影してご報告したいと思う。しかし、なんと言うのか…珍しいですよ、屋根に穴が開いてる風景って。

【著者略歴】

わかぎあふ

1959年、大阪府生まれ。女優、エッセイスト。1986年より作家・中島らも氏とともに劇団「リリパット・アーミー」を主宰し、現在同劇団の進化形「リリパット・アーミーⅡ」の座長。1994年より演劇ユニット「ラックシステム」を旗揚げ。演劇制作会社「玉造小劇店」を運営し、女優のみならず、脚本、演出、メイクから衣装まで芝居全般にわたりその才能を発揮し続けるスーパーレディ。主な著書に『すみっここのすみっこ』『女体の神秘』『秘密の花園』『ぬくい女』『太りすぎの雲』『イブの抜け穴』など多数。
